



SIGNIS JAPAN ニュースレター

タリタ・クム！ 起きなさい！

発行：SIGNIS JAPAN（カトリックメディア協議会）

代表：土屋 至

発行所：〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42

聖パウロ女子修道会内

TEL 03-3479-3941 E-mail: info@signis-japan.org

http://signis-japan.org/

主のご降誕おめでとうございます！

多くの教会でそれぞれ思いを込めて馬小屋(プレゼピオ)作りをされたことと思います。特に技能実習生や語学研修生を含め、外国籍の信徒の方々が多くいらっしゃる教会では元気な掛け声が聞かれ、大型の馬小屋が誕生しているのではないのでしょうか。パレスチナ、ウクライナと戦争が絶えず心が痛みますが、一年のお恵みに感謝し、これからの一年の力添え・お恵みをお祈りしましょう。一人ひとりに与えられたタレントを使って周りの人々と協力し合って神様の平和と愛の思いを一步でも前進させましょう。皆様とご家族と世界の人々の上に神様の祝福がたくさん降り注ぎますように！



映画上映会を開催して ～長崎、平戸からの報告～

拝啓 「タリタ・クム」ご覧の皆さまへ

主はすぐに来られる 主を待とう救いの主を!!

今年も残りわずかとなりました。待降節に入りイエス様を迎える準備をしながら、この一年を振り返っています。皆さまにとってはどのような年だったのでしょうか。

こちらは、コロナ禍で約3年半、講演会・上映会など人が集まる活動中止を余儀なくされていましたが、今年5月に「5類感染症」になったことを機に、家庭委員会では久々に映画上映会を開催いたしました。今日はその時の様子をお知らせし、ともに喜びを分かち合えればと初めてお便りいたします。



開催のきっかけは、「共に生きる学び」の一環として映画上映会を企画、人が集まることに対する不安の声、テーマ、費用の面など上映会は難しいのではないかなどと、迷っていた頃に、SIGNIS JAPANさんから「授賞式・上映会&対談」の案内が届いていたことを思い出したことです。「会場が東京では遠い長崎から参加するのはとても無理！」と無関心に近い状態で脇に置いていたパンフレットを眺めなおして、東京へ行く事は無理でも長崎で上映会を開催したいとの思いに駆られました。どちらも素晴らしい作品ですが、2本を上映するには問題が多く、検討の結果、長崎出身の松本准平さんが監督された「桜色の風が咲く」を上映することにしました。

10月29日(日)長崎カトリックセンター・ホールで開催した時には、上映開始直前に松本監督より届けられたメッセージが代読され、自身がキリスト信者であること、映画製作に携わるまでの経緯などが紹介されました。当日は、約280人の参加者で会場が埋め尽くされ、終了時には、拍手がおこりこれからもこのような映画上映会を企画してほしいとの声や、「教会にもこのようなシノダリティが必要ですね。」と声をかけられるなど、家族の愛と絆に感動したひと時となりました。

11月23日(木・祝)平戸地区でも、同じ内容の映画を上映しました。長崎は離島が多く、平戸市は今では橋で繋がっていますが、映画館はありません。教会での映画上映は照明や音響など映画館のようにはいきませんが、それでも同じ教区民だという思いで、精一杯の努力と平戸島端々からの参加者で教会は温かい雰囲気に包まれました。



た。何よりも、中村大司教様がオフレコで参加してくださり、信徒の皆さまからは更に歓びの声をいただくことが出来ました。

これからも諦めず、心を尽くし 思いを尽くし 神さまがいつもそばにいて下さることを信じて共に主の道を歩みたいと励まされた映画上映会となりました。



カトリック上神崎教会

長崎大司教区 家庭委員会 辻 喜美子 (シグニスジャパン賛助会員)

日本カトリック映画賞の授賞作品で 上映会を行いませんか

SIGNIS JAPAN では、日本カトリック映画賞を毎年選定しています。1976 年以来、毎年 1 回、前々年の 12 月から前年の 11 月までに公開された日本映画のなかで、カトリックの精神に合致する普遍的なテーマを描いた優秀な映画作品の監督に贈られるもので、今年で 47 回を迎えました。

これまで受賞した作品の上映会を企画しませんか？
シグニスの映画チームが上映会をサポートします。
今年は、長崎と平戸で 2023 年の授賞作『桜色の風が咲く』の上映会が行われました。(1p に掲載)

シグニスでは作品選定の相談、配給会社からの DVD レンタルの交渉、チラシの作成補助、授賞式および監督と顧問司祭・晴佐久昌英神父との対談 DVD 貸与などをサポートいたします。上映に関する経費補助はできかねますが、上映会開催に興味のある方、是非シグニスまでご相談ください。

「映画とは何かが、分かった気がした。それはたぶん、人間の美しさをみんなで共有する道具なのだ」これは 2017 年の受賞作『ブランカとギター弾き』についての晴佐久昌英神父の授賞理由の一節です。

映画のもつ力を信じて、日本各地でカトリック映画賞受賞作品が上映されることがシグニスの願いです。

(映画チーム 鶴飼恵里香)

★上映会についての問い合わせ先

info@signis-japan.org

★日本カトリック映画賞の受賞作は下記のサイトよりご覧いただけます。

<https://signis-japan.org/catholic-film-award/>

<2019 年～2022 年の授賞作品>

第 44 回『こどもしょくどう』日向寺太郎監督

第 45 回『コンプリシティ／優しい共犯』近浦 啓監督

第 46 回『梅切らぬバカ』和島香太郎監督

第 47 回『桜色の風が咲く』松本准平監督

第 2 回シグニス平和賞『荒野に希望の灯をともし』
谷津賢二監督



シグニス映画フェスティバル 第 1 回プレイベントを開催しました

前回の第 45 号にて、日本聖書協会主催「聖書映画コンテスト」に代わる新しいイベントの開催を、シグニスが検討していることをお伝えしました。



「シグニス映画フェスティバル」と名づけられたこのイベントは、会議で無事に承認され、2024 年 4 月から映画の募集を開始する予定になっています。

その準備として、10 月 20 日(金)に「第 1 回プレイベント」を行いました。ゲストに片岡賢蔵氏(日本基督教団東中通教会牧師、キリスト教映画伝道ネットワーク主宰)をお迎えし、ホストである石原良明氏(シグニス)とともに、どのようなイベントにしていけるか、熱く語り合いました。

シグニス映画フェスティバルでは、聖書の言葉に限定せず、広い意味での「福音的な映画」を募集します。

例えば、

- ・自分たちの中から湧き出る感情に価値を見出すような映画
- ・人々に希望を与えるような映画
- ・ささやかな日常の喜びを分かち合う映画
- ・平和な気持ちを抱くような映画
- ・明るくて元気が出るような映画
- ・うっかり噴き出してしまうような映画
- ・福音を味わいや喜びを感じさせてくれる映画

といった映画になると思います。シグニス映画フェスティバルは「コンテスト」ではなく、参加者や閲覧者がみんなで楽しめるようなイベントを目指していますので、きれいに編集しなくてはいけないといった心配はせず、気軽に送っていただきたいと思います。片岡氏によれば、『『レディ・バード』という映画には『目を向けることは愛することだ』というメッセージがある』とのこと。そのように、素朴な視点やまなざしで目を向けたものや、皆さんの「よい知らせ」を映画で広めていただければ幸いです。

次のプレイベントは来年 1 月を予定しております。著作権や肖像権についての解説を片岡氏にさせていただくほか、応募要項についてもお伝えしていきたいと思っています。ぜひ、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

(インターネットチーム 高原夏希)

「SAA2023 バンコク」から「SAA2024 東京」への 途上の私たち



2023年10月23日から27日まで、シグニスアジア会議「Signis Asia Assembly 2023」に出席するために、タイ・バンコクに行ってきました。シグニス会長・土屋至さんと2人での参加でした。前後合わせ、一週間の海外滞在になり、無事、今は日本の生活に戻っております。タイに出してくれた日本の皆さんに、タイでは受け入れてくれた皆さんに、心から感謝しています。

アジア大会には、インド以東12カ国の代表が集まり、皆でいろいろ討議したり、親睦を深めることができました。何しろ、アジアの友だちができました。

感じたことは色々ですが、「日本の存在感の弱さ」を痛感。ジャパンパッシング（日本素通り）は進み、もはや日本は「アジアの盟主」などではなく、日本円も弱く（1ドル≒151円）、ハイテクも過去のものになり、「貧しくなった日本」を感じました。ただ、タイでは日本車はよく走っていました。

会場は、Baan Phu Waan という、バンコク大司教区の司牧センターで、豪華なリゾートホテルの趣で、湖までありました。SAA 2023 には一日、市内実地研修の日があり、仏教寺院（ワット・アルン／暁の寺）を訪ねたり、タイ最古のテレビ局（MCOT）を見学したり、ミッションスクールの生徒と交流したり（写真左下）、チャオプラヤ川リパークルーズに参加する機会もありました。詳細の参加後記を、[ウェブマガジン AMOR](#) に書きますので、こちらもお読みください。



SAA 2023 では、来年のアジア会議が東京で行われることが決定。ここからは私たちの「腕の見せ所」です。ベトナムの神父さんからは、「SAA 2025 は、ベトナムでできたらいいねえ」といった声も上がっていました。「ドラえもん」（小学館）、「ONE PIECE」「NARUTO」「鬼滅の刃」「呪術廻戦」「SPY FAMILY」（集英社）など、日本のアニメーションはベトナムでも、タイでも知られているらしく、SAA 2024 では、「日本アニメ」のツアー企画も立ててみたいと思っています。（事務局 倉田夏樹）

江戸・元和の大殉教 400 年記念 ローマ・シチリア巡礼に参加して

アンサローネ、ジョゼッペ・キアラ、そしてシドッチ、内3人は今回初めて知りました。江戸の殉教者デ・アンジェリス神父の故郷エンナの「デ・アンジェリス祭」に日本の巡礼団として初参加することが主目的ですが、5人の神父の郷里を訪問し、日本への布教・受難への感謝の意を伝えるという趣旨もありました。またキリシタン屋敷の敷地跡で遺骨が見つかったシドッチ神父の列福運動を願う方々も参加していました。

巡礼団は北海道から九州まで全国から31名、様々な経緯で、また色々な経験や目的をもった多彩な顔ぶれが集まり、知り合えたのもまた大きなお恵みでした。小雨も降りましたが、バスの中、ホテル滞在中と、一度も雨具を出さずに済みました。福者デ・アンジェリス殉教400年祭は山の上のエンナ旧市街で霧の中約1Kmを消防団員が神父の像と聖遺物を御神輿の様に担いで、我々も街の人々と共に練り歩きました。

今回の巡礼での一番の感動は、あの禁教時代に命を賭して日本への宣教を志した人々の存在とその意志の強さ、そしてここシチリア島は紀元前はギリシャ、その後ローマ、ゲルマン人、6世紀に再びギリシャ、9世紀にアラブ人、11世紀にはノルマン人と植民地化されたが、ノルマン人はアラブ人やギリシャ人を積極的に登用し、多民族共存を実現した。特に12-13世紀のシチリアはキリスト教とイスラム教の対話がなされた稀有な時代だったという。その名残を今も建築や人々の考えに見ることができる。今や諸宗教対話の時代、パレスチナやウクライナでの戦争は宗教ではなく、昔ながらの土地の略奪に対する自由と尊厳をかけた抵抗運動なのだと思う。神様からの叡智で一刻も早い戦争の終結を祈願すると共に、我々の世代もこのノルマン人の叡智をもう一度生かさねばと強く思います。

なお、今回の巡礼を企画・実行したのは吉祥寺教会の一信徒の女性、この巡礼が実現できたのはひとえにこの巡礼が神様のみ旨に適っていたからだとな天の恩寵を強く感じます。（町田雅昭 シグニスジャパン）



SAA 2024 東京 2024 年シグニスアジア会議東京開催



SAA2007 のロゴ

今年のアジア会議（タイ・バンコク）報告にもありますように、来年 2024 年、シグニスアジア会議の東京開催が正式に決定されました。シグニスジャパンではこれから、開催に向けて具体的な準備を始めます。概要は次のとおりです。

- 日 程：** 2024 年 9 月 24 日（火）～9 月 27 日（金）
開催場所： 国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）
テ ー マ： 教皇の 2024 年世界広報の日のメッセージを受けて決定
サブテーマ（仮）：「デジタル時代の平和の文化」
内容（仮）： 各国のメディア活動についての発表および意見交換
メディアについて学ぶ若者からの発表および意見交換
日本カトリック映画賞またはシグニス平和賞授賞作品の上映
目 的： シグニスの目指す「Media for Culture of Peace 平和の文化のためのメディア」を実現するため、発表と意見交換を通してお互いに最新のメディア活動の状況について勉強し刺激を与え合い、シグニスアジアとして、または各国シグニス、各団体としてのアクションプランを作る。
また、若い人たちから、メディアに対する期待、不安など、率直な意見を聞き、「平和の文化のためのメディア」とは何か、我々に何ができるかを共に考える。

参加対象者： アジア地域のシグニスの会員
日本国内のシグニスの会員
日本国内で、主にキリスト教会、団体においてメディア、インターネットに関わっている方
その他、このテーマに関心のある方

※参加には事前登録が必要です。会議詳細は、2024 年春頃にシグニス web サイトにてお知らせします。

2007 年のアジア会議には、海外より 37 名、国内より 19 名の方が集まり、テーマ「Many Voices - One Mission : Peace 多くの声 — 使命は一つ：平和」について、討論を行うと共に、互いの親睦を深めるすばらしい機会になりました。（写真右）また、シグニスジャパンにとりましては、初めてアジアのシグニスの仲間と実際に共に働き、世界に歩みでていくきっかけともなり今につながっています。多くの方がボランティアとしてこの会議を支えて下さったことも、大変大きな励みになりました。

是非、来年の SAA 2024 Tokyo も応援していただきたく、どうぞよろしくお願いいたします。



この一年、シグニスジャパンの活動をささえていただき、ありがとうございました。
お元気でよい新年をお迎えくださいますように。 シグニスジャパニー同



会員・サポーター募集

会員：一緒に活動して下さる方 個人会員 6,000 円／年 団体会員 12,000 円／年

サポーター：経済的に支援して下さる方 1,000 円／口（何口でも）

ニュースレター「タリタ・クム！」をお届けします。ともに感謝ミサをいたします。

映画賞上映会、インターネットセミナー、また SAA2024 など、ボランティアとして活動してください。

★教会、修道会広報関係の方も歓迎いたします。

<振込先>

銀行振込：三菱 UFJ 銀行 六本木支店（店番 045）普通 1679019 口座名：SIGNIS JAPAN 代表 土屋至

郵便振込：口座番号 00100-0-594547 口座名称 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

* 他行から振込場合 銀行名 ゆうちょ銀行 店番 019 預金種目 当座 店名 ○一九店（ゼロイチキュウ店）
口座番号 0594547 口座名義 SIGNIS JAPAN 代表者 土屋至

お申し込み、お問い合わせ 女子パウロ会内 SIGNIS JAPAN
〒107-0052 東京都港区赤坂 8-12-42 / info@signis-japan.org